

ホテイアオイ

熱帯アメリカ原産で、明治時代に日本に持ち込まれたと言われています。現在は、北海道を除き、各地に広く分布しています。

葉柄（ようへい）がふくらんで浮き袋のようになり、全体が水に浮かび、根は水中にたれています。高さが10cm くらいの小さな状態で生育することもあれば、1m くらいにまでなることもあります。

夏から秋にかけて紫色の美しい花を咲かせます。根元から枝をだして新しい株を次々につくり、短期間で水面全体をおおう大きな群落（ぐんらく）になります。観賞用に栽培されますが、野生のホテイアオイが栄養分の多い水域で大繁茂（はんも）して害草になっています。

富士市での現状

流れの緩やかな沼川とその周辺に、たくさんの確認地点があります。滝川の下流でも確認されています。水に栄養分が多い川、水路、池で繁茂して、水面が見えなくなることがあります。ホテイアオイが大繁茂した水路や池では、水から引き上げて乾かしたり、他の場所で処分して、害草としての除草対策が行われているところもあります。旧富士川町域では確認されていません。



ホテイアオイの生えている様子と花

ホテイアオイを確認したメッシュ

